

「音楽リズム」という領域における

## 幼児の発達段階による指導目標

藤 田 妙 子

### 一、序 説

「音楽リズム」ということばは、わかりにくいことばである。「リズム」(節奏)とは、「ハーモニー」(和声)、「メロディー」(旋律)と共に、音楽の三要素の一つであって、音の長短強弱の配列の関係をさしていることばであるから、「音楽リズム」というと「音楽」の「リズム」のことかと思われ易い。

しかし、この場合の「リズム」とは「節奏」のことではないのである。これは「動きのリズム」即ち「踊る」ことをいうのである。

リズムということばは、専門語として、音楽の三要素の一つとして用いられる他、一般社会では「生活のリズム」だとか「リズムカルな屋根の起伏」だとか、何となく文学的に「リズム」ということばをつかっている。「動きのリズム」とは「身体の動きによる表現」つまり「舞踊的な表現」のことなのである。

幼児教育に於ける「音楽リズム」の領域は、日々の保育に何等かの形

で必ずとり入れられ、これをおいて保育はないといっても過言ではない。それにもかかわらず、この領域の内容や目的をはっきりつかんでいる保育者は非常に少ない様に思われる。その為、日々に行なっている保育が無自覚で、どうかすると、かたよったり、間違った方向へ走ったりし易いのである。

私の二十一年間に亘る幼稚園教諭としての経験と、東京ゆかり文化幼稚園及びその他東京、川崎をはじめ、全国の幼稚園に於ける私の調査をもとにして、ここに、幼稚園に於ける「音楽リズム」の領域の保育内容を検討し、その教育目的を探り、更に3才児、4才児、5才児の身心の発達段階にてらし合わせて、適当と思われる指導目標を割り出して見た。

### 二、「音楽リズム」領域の内容

この領域の内容を「歌うことによる活動」と「弾くことによる活動」と「聴くことによる活動」と「踊ることによる活動」及び、総合活動として「劇あそび」の五つに分類して考えることにした。

## 1 歌うことによる活動

幼児の音楽的な感覚は、おとなが考えているよりよほど鋭いものである。しかし幼児の表現力ということになると、体が未発達な故に、歌唱に於ても、発声、音程、リズムに於ける巧緻性、その他の点で不完全であることは当然である。

しかし、音楽とは理屈でなく、心で感じ、その中に陶醉して表現するのが本来の姿である。幼児の歌唱についても、いたずらに技術に走らず、音楽の楽しさ、本来の姿を大切にしなければならぬ。その為に保育者はすぐれたよい曲を選ぶ能力をもっていなければならぬ。そして、歌う技術、弾く技術、読譜力と共にその曲に陶醉しいきいきとした表現と指導をする力をもっていなくてはならない。

幼児の歌唱活動には独唱、斉唱、輪唱、合唱などが考えられる。又歌による劇あそび、オペレッタなど幼児の楽しんでものである。

幼児の音域と発声については、高い方の音を出すのに地声をはり上げた無理な発声をするとう声帯をいため、声としても聞き苦しい音になる。5才から6才にかけて、幼児は次第に頭声を用いて発声することができるようになるから、その時期をとらえて適当な指導をすることが望ましい。頭声を出せる様になると、幼児の音域は著しくひろがる。

## 2 弾くことによる活動（楽器あそび）

幼児が楽器を弾くというのは、この場合、簡易リズム打楽器を打ち鳴らすことを主なる活動とする。

楽器あそび（合奏）に用いる簡易リズム打楽器には次の様なものがある。

カスタネット

タンブリン

鈴

トライアングル

シンバル

大太鼓

小太鼓

ボンゴ、小型ティンパニ等

ウッドブロック、木魚

マラカス ギロー等

小鳥笛

その他空かんや鉄のレールの切れはし、おもちゃなど、音のするものなら何でも自由に簡易リズム楽器と考えると、巾のある面白い演奏効果があげられる。

次にメロディー楽器について考えると、幼児をメロディー楽器に親しませるということは必要である。この「親しませる」という意味は本格的に教えるという意味ではなく、さぐり弾きをしたり、いじって遊ぶという程度のものである。幼児の楽器に対する素直な興味は大切にしたい。しかし楽器を乱暴に取り扱ったり悪ふざけをするようなことはいまいしめなければならない。

又、木琴やハーモニカはメロディー楽器ではあるが、打楽器的な表現も可能なので、楽器あそびに於ける合奏の時に用いることも出来るが、

大ぜいで演奏する場合が多い。

合奏の中で一人で演奏する場合が多い。

音程が狂い易かったり、表現するむずかしさもあり、又どの調の曲にも適しているわけではないので、指導にそれほど注意しないと却って幼児の耳を鈍感にさせてしまうおそれもある。一般の幼児教育の場としての幼稚園では、必ずしもこれ等の楽器を取り扱わなければならないとは限らない。

合奏の指揮と伴奏は教師がするものである。殊に指揮とは曲の全体を把握し、各楽器のパートをその曲にのって、しかも一瞬はやく指示し、誘導することであるから、幼児が指揮の形だけまねても本当の指揮は出来ない。格好をつけるだけのために、一人を意味なく目立たせてはならない。

選曲は、そのリズム打楽器の表現に適した曲を選ぶべきで、どちらかといえば、マーチ風の、リズムカルな活発な部分の多い曲がよい。ピアノ曲の中にも適当な曲がかなりある。今歌っている子どもの歌を常にリズム合奏でもしなければならいと考えてはいけない。静かな歌など、ガチャガチャしたカスターネットやタンブリンの音で表現することは無理であることが多いし、ふん囲気をこわしてしまうからである。

### 3 聴くことによる活動(鑑賞)

幼児が生まれつき内蔵している鋭敏な音感覚と、自然に直結した素直な美感、調和感は2・3才から5・6才までの間に急速に発達する。絶対音感も主としてこの時期につくのであって、学齢以上になるとその発達がぶくなる。

このため、幼児期によい音楽を聴くことの出来る環境におくことが絶対に必要なことである。

幼稚園に於ける音楽鑑賞教育には、1、音楽を流してきかせる。2、音楽を意識させてきかせる。以上の二つの方法が行なわれる。

#### (1) 音楽を流してきかせる場合

幼児が自由に遊んでいる時、または食事、睡眠などの日常生活をしている時、よい音楽をあまり目立った音でなく、それとなく流しておくことは、非常に効果的である。幼児は音楽をきいているという意識を持たないで他の活動をしているが、知らず知らずのうちにその曲の持つ旋律や和音やリズムなどを身につける。

流してきかせる曲は、特に幼児だからといって単純な曲や幼稚な曲を流す必要はない。幼児の耳はおとなより遙かに純粹であって、おとなが幼児向きと考える曲よりむしろ本格的な名曲に素直に直結するのである。バッハ、ベートーベンその他の古典の名曲から、浪漫派、印象派、辺りまでの勝れたよい曲を選んでよい。

流す方法としては、幼児が無意識のうちに流れるよい音楽のふん囲気の中で遊んでいる様にする。即ち「ききましよう」などと指示をしないで、自由に遊ばせ、その上に美しい音、弱い音でそれとなく流す。これは毎日異った曲をでなく少くとも一ヶ月以上は同じ曲を流すとよい。主としてレコードを用いる事が多いが、なまの演奏もそれが可能なら活用したい。

この場合、幼児は好き勝手なことをして動きまわり、或は騒ぎ、しゃべり、一見、音楽とは無関係である様に見えるが、この様に無意識に耳にはいった音楽が、幼児の音感や美感を育てるのである。

#### (2) 幼児がはっきりときく意識をもつ場合

これは(1)の場合とちがつて、幼児にきく意識をはっきり持たせて、リズムやメロディーのはっきりしたわかり易い、いわゆる幼児向きといわれる曲をきかせることである。

リズムのはっきりしている曲など、幼児はそれにあわせて体を動かしたり、何かを叩いたりすることがあるが、これは幼児がその曲に没入して聴いていることなので、一概にやめさせてはならない。

いわゆる幼児向き鑑賞曲、つまり意識してきかせる曲としては、あまり長くなく、明るい、リズムカルな、覚え易い曲がよい。レコードによる場合が多い。又、なまのすぐれた演奏をきかせることもよいし、子ども達どうしで互いに歌や合奏をしたり、きいたりすることもよい。

#### 4 踊ることによる活動(動きのリズム)

幼児の体の大筋の調和のとれた成長発達ということ、及び、体の動きによる表現を楽しむ、創造する力を培って行くことを目的としている。

これ等の活動は他の活動と同じ様に、あくまで幼児の日常のあそびの中にあるもので、誤った体の訓練にかたよってはならない。

- (1) 幼児の体の大筋を調和のとれた発達にみちびくこと、及び、踊ることの楽しさを感じさせる。

この教材として、次の様なものが考えられる。

体操及び基本運動

フォークダンス

わらべ歌あそび等、集団あそび

リズム遊び

#### 幼児向き舞踊作品

童謡  
歌のない小曲  
舞踊劇

体操や基本運動も幼児は楽しんでする。但し、指導者は正しく、注意深く指導し、決してその場の思いつきや雑な用意などで行なってはならない。巧技台を用いる場合なども、充分注意した上で、せい一ぱい動ける様に指導することである。

フォークダンスは世界の各国、各地方で古くから踊られている民族舞踊のことである。(新らしく作られたものはフォークダンスとはいえない。)外国のフォークダンスの中には、踊り方が単純で、健康で明るく、楽しいものが多いので、よく学校舞踊としてとり上げられる。その中で幼児向きのものも多い。

わらべ歌あそび等は、日本の昔からあそび伝えられて来ているものが多い。我々はやはりそんな郷土的なあそびを大切にしたいと思う。その土地により、又時代により遊び方が多少違っていることがあるが、出来るだけ原形に従がいたい。

新らしく出来た集団あそびの中にも面白いものが幾つかある。しかし、この種のものの中には音楽的に正しくないものや、美しくないものもある。よいものを選んで行なって行きたい。

リズム遊びは指あそび的なものから全身を動かした舞踊表現に至るまで、広く解釈されるが、やはりよい曲を選ばなくてはならない。いたずらに舞台効果のみをねらったものや幼児にこびたもの、或いは内容的に健康でないもの、少数のよく出来る子どものみ主役的に用いるもの、女

児にのみ喜びばれるものなどは適當ではない。

同様なことは、童謡舞踊作品や、歌のない曲の舞踊作品、舞踊劇にもいえることである。又レコードを用いる場合、子どもの歌手がいかに職業的に悪ずれをした歌い方をしているものは避けなければならない。幼児の美感を損ねるからである。

しかし、よい舞踊作品を集団で幼児が踊ることは、幼児に踊る楽しさを与え、創造的意欲をも助長する。

## (2) 身体の動きの自由表現により、創造性をたかめる。

創造性は幼児期に芽ばえさせなければならぬものであるし、また創造こそ表現活動の最終目的である。勿論幼児はそれ程はつきりした意識をもたずに、新鮮な表現をするがそれを即ち幼児の創造性のすばらしさであると驚く必要はない。しかし、ただ、幼児は自然そのもの…本物…に直結しているというとはいえる。おとなの様に既成概念に毒されていない幼児の素直な表現は、幼児自身にとって特に意識したものでも努力したものでもないが、おとなにとってやはり大切にしたいものであるし、又、幼児にそういう表現をためらわずに出来るようにし回してやる事が、幼児の表現力と創造力を育てる上に何より有意義なことなのである。

## ・ 自由表現のあり方とテーマ

幼児は日常ままごとなど自由にいろいろな表現をして遊んでいる。おとなとちがって、容易に表現体になれる特性をもっているので、特に指導しなくてもインディアンごっこや店やごっこ、冒険ごっこなどでその役になり切って遊んでいる。これは自由表現を教育の中にとり入れ易い

ことを示している。

自由表現のテーマとして次にあげる。

○ 動物(獣、鳥、魚、昆虫、爬虫類など)

○ 人間の職業動作、日常動作、感情動作

○ 植物

○ 自然(山、波、水、火、太陽、星、月、雨、風、石、氷、その他)

○ 人工物、機械など

これ等のテーマで断片的な動きの自由表現を幼児の中から引き出すのに、心して概念化を避けなければならない。表現しようという熱意がなければ出来ないで指導者も幼児も、そこまでもり上がって、その上で独自の表現が出て来るべきである。

指導者はよく動ける体を持っているとよい。しかしあまり先に立って動きすぎると幼児がそれを手本の様に思っただけをするから、幼児の中からいろいろの動きが出て来たら、その中に加わってせい一ぱいよく動くのがよい。はじめのうちはせいぜい助言をすることである。

## ・ 自由表現のまとめ。

断片的で、瞬間的で、その場かぎりに消えるのが自由表現の本来の姿である。その為、最初の表現が最もいきいきしている。しかしこれをもっとほり下げ、新らしい様々な想定を加え、発展させて行くと、劇あそび風になったり、組曲風になったりして、一応創作として定着した形が出来ることがある。ここまでの指導が出来れば非常によい。

## ・ 伴奏

曲にあわせて自由におどることは、半分しか自由ではないのである。

本来幼児の中から生まれた自由な動きが先にあって、それに伴奏が後からつくことが本当の姿である。

これは動きに合わせて、タンブリンなど打楽器を用い、ナレーションで進めて行くのが最もやり易い形であろう。ピアノで即興伴奏が出来ればそれもよいが、やはり正しい和音で美しく立派に弾いてほしいので、実際には出来る教師は少ない。それより打楽器で充分ふん囲気は出る。又表現内容にあったレコード音楽を用いる方法もある。又これ等を総合させてテープ録音を上手に用いる方法もある。

## 5 劇的な活動（総合表現）

幼児に於ては「音楽リズム」の領域に含まれる劇あそびが最も多く、しかも本当の劇の姿であることが多いと思う。

幼児はセリフをしゃべるとわざとらしくなることが多いし、声もよく通らない。その上主役とか相手役など少数のスターを作ってしまう弊害もある。一般の教育の場として幼稚園や保育所では、すべての子どもが、あまり重い軽いの別なく役わりに参加し、楽しめるものでなければならぬ。それには、「舞踊劇」と「オペレッタ」が最も適しているのである。これ等は集団と集団の動きや歌の対話で劇が進行することが出来るからである。

この教材を選ぶに当たっての注意としては、次の様な事がらがあげられる。

- (I) 集団と集団の歌又は踊りによる対話で劇の全部が構成されていること
- (II) 主役とか脇役とかいうのではなく、どの集団もあまり重い軽い

がないこと

- (III) 内容が劇として美しく、且つ幼児の心にあっていて、興味をもってこれを表現したいという意欲をもつものであること。
  - (IV) 音楽としても美しく、正しいもの。
  - (V) クラス全部のどの子どもも落伍することなく、いきいきと劇中のものになり表現出来るもの。
  - (VI) 音域的にも多少の配慮がなされていること。（オペレッタの場合）
  - (VII) 原則として一幕ものであること。
  - (VIII) 歌うこと、（或は踊ること）そのことが主体であって、セリフで進行しないもの。
  - (IX) 装置や衣装は簡単で、出来れば幼児自身の製作によることが望ましい。
  - (X) 伴奏など指導者の手に負えるものであること。（舞踊劇の場合）
- 幼児がこの様な劇あそびをすることによって、楽しく歌ったり、体を動かしたりし、又劇の内容を理解し、全体の調和の上に立つて各役わりを演じ、又造形的な意味でもいろいろの表現をして、集団的な大きなまとまった表現を体験する。

## 三、幼児の発達段階による一応の指導目標

（注、「きく（鑑賞）」項は「意識してきく場合」を主にした。）

|           | う た う<br>(歌唱)                              | お ど る<br>(身体の動きのリズム)  | ひ く<br>(楽器あそび)                   | き く<br>(鑑賞)                    | 備 考   |
|-----------|--|---|----------------------------------|--------------------------------|---|
| (3才児) 一学期 | ○みんなと一緒にうたうことに興味をもつ。                       | ○みんなと一緒に簡単なリズム遊びをするのをよろこぶ。  | ○曲に合わせて手を叩いたりリズム打楽器を自分流に叩いたりする。  | ○古典の名曲の中で明るく楽しい感じのものを流してきく。    | 「きく」年長組と同じ曲でよい。   |
|           | ○自分の知っている歌を楽しんでうたう。                        | ○走ったりとんだりすることをよろこぶ。   | ○簡単な拍子打ちで一二種のリズム打楽器の斉奏をする。       | ○明るいリズムミカルな曲をきき体を自由に動かす。(意識して) | だんだん自発的な活動が出てくる。  |
| 二学期       | ○自分の好きな歌をもち、いきいきと歌う。                       | ○物まね遊び等をよろこぶ。   | ○二三種のリズム打楽器の交互奏などもする。            | ○静かなゆったりした曲も気持ちのままに自由にきく。      | 「きく」流しても、半ば意識してもよい。<br>「物まね遊び」に独自の表現が出る。                |
|           | ○言葉をはっきり意欲をもってうたう。                         | ○音楽にあわせて自由にとんだりはねたりする。  | ○曲にあわせてリズム打楽器を自由に打つ。             | ○知っている曲をきいて楽しむ。                | 各項は単独でなくダブってあられることが多い。                                  |
|           | ○みんな揃って、はじめるから最後まで歌える。                     | ○みんな揃っておどることをよろこぶ。  | ○リズム打楽器の音色のちがいに興味をもつ。            | ○何となく流して名曲をきいているうちに音感が安定してくる。  | だんだん集団的な表現にも意欲をもつようになる。                                 |
| 三学期       | ○どなり声でなくきれいに歌おうとする。                        | ○体育的な基本運動をそれぞれの能力なりにせい一ぱいする。  | ○知っている曲をリズム斉奏して楽しむ。              | ○年長組の子どもの歌や演奏もきく。              | かなり活発な動きが出来る。   |
|           | ○おぼえた歌をその気持ちにとけ込んで歌う。                      | ○自分の好きなテーマで思い思いに表現体になり切って自由表現をする。<br>○簡単なリズム遊びを楽しんで、意欲的にしてあそぶ。          | ○簡単な曲を二三種のリズム打楽器による斉奏や交互奏をして楽しむ。 | ○いくつか好きな曲が出来たり断片的に覚えていたりする。    | 個性的になってくる。<br>劇的表現及び創造的表現は常に各項の中に含まれている。                |
| (4才児) 一学期 | ○みんなと一緒に知っている歌を楽しんでうたう。<br>○新しいうたを少しずつ覚える。 | ○音楽にあわせて手を叩いたり、上半身を動かしたりして簡単なリズム遊びをする。<br>○みんなと一緒に歩いたり走ったり、簡単な動きの表現をする。 | ○音楽にあわせて手を叩く。                    | ○音楽をきくことをよろこぶ。<br>(意識して)       | 新入園児と、3才組をおえて上級にあがった子どもが一緒にいる場合が多いので、一応4才の新入園児を主として考えた。 |

|             | う た う   | お ど る  | ひ く                             | き く                        | 備 考   |
|-------------|---|--|---------------------------------|----------------------------|---|
|             | ○新しい歌をおぼえることに興味をもつ。                             | ○マーチに合わせて並んで歩く。<br>○音楽に合わせて自由に体を動かして楽しむ。                       | ○簡単な曲に合わせて拍子打ちをする。              | ○レコードではっきりした明るい曲をきいて楽しむ。   | 前からいる子供は別にあきる様子はない、むしろリーダーになって集団を盛り上げることが出来る。 |
|             | ○一つの歌をはじめからおわりまで途中でやめないで歌う。                     | ○身近かなテーマで自由表現をする。<br>○知っている歌を動きの表現でみんなでおどる。                    | ○二三種のリズム打楽器でリズム打ちの斉奏をして楽しむ。     | ○流してきいている曲などを部分的に覚えていたりする。 | 発達のちがいや個性のちがいが目立って来て、一斉に全員で何かすることはなかなかまとまらない。 |
|             | ○前奏の時からその曲の心になってうたう気持ちを起す。                      | ○動物など表現しやすいものの模倣表現を楽しんでする。                                     | ○斉奏だけでなく交互奏もまじえて合奏する。           | ○好きな曲を楽しんで聞く。              | あせらず、自由に保育をのびのびと行う必要がある。                      |
| 二<br>学<br>期 | ○きれいな声で歌おうとする。<br>○ことばをはっきりと歌う。                 | ○体操や基本運動を喜こんでする。<br>○二人組のフォークダンスも楽しめる。                         | ○二三種のリズム打楽器で合奏し、各楽器の音色の違いを自覚する。 | ○リズムのはっきりしたマーチの曲などをきいて楽しむ。 | 体の動きが活発になってくる。                                |
|             | ○口をよくあけて意欲的に歌う。<br>○歌の内容をわかってそれを意欲的に表現しようとする。   | ○身体の各部の発達にともなって、動きの巾がひろがってくる。<br>○自由表現が劇あそび風なまとまりになってくる。       | ○合奏の各パートの調和に興味をもつ。              | ○静かな美しい曲にも興味をもつ。           | 集団的な表現がそろそろまとまってくる。(舞踊劇などして楽しむ)               |
|             | ○二番ぐらいまでの歌詞をまちがえずにうたう。<br>○歌うことをよろこびいきと歌う。      | ○自分の考えたままを独自の表現にすることをためらわない。<br>○せーばいとんだりはねたりすることに自信をもつ。       | ○二三種のリズム打楽器で異ったリズムを打ちそれで合奏する。   | ○独奏曲をきき、その楽器の音色を味わう。       | のびのびとカーバイのぶつかりを大切にする。                         |
|             | ○声をきれいにそろえて斉唱する。<br>○曲の気持ちにわけこんで歌う。             | ○人の感情動作なども加え、動きの自由表現に巾が出てくる。<br>○音楽に合わせて自由に踊って楽しむ。             | ○三種以上のリズム打楽器で簡単な合奏を先生の指揮によってする。 | ○Xマスなどの曲をきき、その気分を味わう。      | 自由表現は大いにのびしたい。声をきれいに出す様にし向ける。                 |
| 三<br>学<br>期 | ○弱起の歌でも簡単なものなら楽にうたえる。<br>○はじめからおわりまで気をそらさずにうたう。 | ○音楽のリズムに合わせて機敏に体を動かすことも可なり出来る様になる。<br>○みんなと一緒にそろった動きも出来るようになる。 | ○よく揃った合奏をしようと各自が意欲をもつ。          | ○日本的な和声の曲にも親しみ、それを感じとる。    | 集中力がまして来るので少し細かい指導にはいってもよい。                   |



|                      | う た う   | お ど る  | ひ く   | き く   | 備 考  |
|----------------------|---|--|---|---|--|
|                      | ○付点音符や休止符も比較的に正確にうたえる様になる。<br>○意欲をもって斉唱したり、一人で歌ったりする。                           | ○自由表現で自分の役割りと他の役割りの違うものを表現しそれに気づく。   | ○弱拍を打つことになれる。<br>○合奏の全体の調和に気づきそれに同調する。        | ○自分の好きな曲を幾つかもつようになる。                        | しかし4才児としてせのびをしないで楽しく各自の個性をのばさなければならない。               |
|                      | ○簡単なオペレッタにもよるこんで参加する。<br>○三番ぐらいまでの歌詞は覚えて内容を理解してうたう。                             | ○自分の感じたままを表現体になり切って、積極的に自由表現でおどる。<br>○とんだりスキップしたり、廻転其他基本的な動きが可なり正確に出来るようになる。 | ○三種以上のリズム打楽器でいくらかまとまった曲をその曲の気持をあらわして意欲的に合奏する。 | ○友だちの歌うのや合奏をきいたり、又レコードや大人の演奏をきいて、自分なりに感じとる。 | 一応音楽をたのしみ、基本的な活動をしたわけである。<br>動きの自由表現はのばせるだけのばしてやりたい。 |
| (5才児)<br>一<br>学<br>期 | ○習った歌を一人でみんなの前で歌う。<br>○新らしい歌を終りまで正しく覚える。  | ○音楽に合わせて積極的にいきいきとおどる。  | ○弾きはじめや区切りをはっきりつかんだ合奏をすることが出来る。               | ○歌や合奏の伴奏の和音やリズムをはっきり感じとる。                   | 表現にけじめがつき、引きしまって来る。                                  |
|                      | ○きれいな声で曲の気分になっ<br>てうたう。<br>○今迄より複雑な歌も歌う。  | ○基本的な運動が可なり正確に出来るようになる。<br>○思うままに自由表現することをためらわない。                            | ○リズム合奏をする時他人のパートと自分のパートの調和を感じる。               | ○レコードで軽快な曲や力強い曲をきいて楽しむ。                     | 4才の頃より内容的にも構成上も少し複雑な曲を与えて、年長になった自覚をもたせたい。            |
|                      | ○メロディーやリズムをかなり正確にうたう。<br>○好きな歌をいきいきとうたう   | ○室内でも体力をつける運動を喜こんで<br>する。<br>○自分自身の表現で自由表現をして楽しむ。                            | ○二種以上のリズム打楽器で強弱やアクセントをつけて合奏する。                | ○レコードをきいてその中の楽器の音色のちがいがわかる。                 | あせらずに内容的なほり下げを進めて行く。                                 |
|                      | ○高い方の音を頭声発声でうたう。<br>○簡単な二部の輪唱が出来る。  | ○自分達で自由表現の劇あそびをどんどん発展させてあそぶ。   | ○今まで覚えた合奏曲をいくつか演奏して、他の組の子どもにもきかせる。            | ○頭声発声で歌っている合唱のレコードなどをきく。                    | 頭声発声が出来ようになるので、今迄より高い音が出せる様になる。                      |
| 二<br>学<br>期          | ○一人だけ目立つように大きな声を出したりしないでみんな揃ってきれいな斉唱をする。<br>○符点音符・ $\text{♩}$ のリズムもはずんでかるくうたえる。 | ○大きな動きや機敏な動きが出来るようになる。<br>○組になったフォークダンスを楽しく踊る。<br>○野外舞踊劇などをする。               | ○その曲の気分浸って積極的に表現する。                           | ○金管楽器と打楽器を多く用いた曲(マーチなど)をきき、その音色やリズムがわかる。    | 集団的な表現が意欲的になる。<br>一人一人の機敏性をのばす様にする。                  |

|             | う た う  | お ど る   | ひ く   | き く   | 備 考   |
|-------------|--|---|---|---|---|
|             | <p>○強弱や曲の高まりを意識して斉唱する。</p> <p>○休止符を正確に表現する。</p>                    | <p>○ルールのあるスポーツを自分なりに力一ぱいする。</p> <p>○音楽に合わせてマ스ゲームを楽しくおどる。</p>                    | <p>○二クラスぐらい合同して少し大きな曲を合奏する時どの子どもも表現能力にあまり差がなくなる。</p>              | <p>○静かな曲もきき、その美しさを感じる。</p> <p>○描写音楽の曲もたまにはききその内容を楽しむ。</p>     | <p>集団の約束を守った表現も出来る。</p>   |
|             | <p>○静かな曲、活発な曲、軽い曲等その気持を表現して歌う。</p> <p>○転調している曲でもすぐ感じとって正しく歌える。</p> | <p>○大きなのびのびした動きで体操やリズム遊びをする。</p> <p>○ごっこ遊びから発展した劇あそびが個性的な動きの表現で生まれたりする。</p>     | <p>○休止符や符点音符なども正しく表現しながら全体の調和をとって合奏する。</p>                        | <p>○弦楽器の独奏曲を聞きその音色を味わう。</p>                                   | <p>集団でもり上がった創造的作品を生み出したい。</p>                                       |
|             | <p>○みんなの好きな歌を気持よく斉唱する。</p> <p>○一人一人が意欲をもってうたう。</p>                 | <p>○体の各部の機敏な動きを総合して大胆に思いのままにのびのびと動く。</p>  | <p>○幾人でも楽器あそびをして楽しむ。少し速い曲もリズムカルに軽快に演奏出来る。</p>                     | <p>○レコードをきいてその中の独奏楽器の音色に気がつく。</p>                             | <p>各項ともデリケートさがまして来る。</p>  |
| 三<br>学<br>期 | <p>○音程を正しく歌う。</p> <p>○ことばの気持のままに歌う。</p> <p>○高い方や低い方をきれいに発声する。</p>  | <p>○いくつかの集団にわかれて一時に異った動きの表現をしてそれが互に調和している事を体得する。</p>                            | <p>○よく揃った合奏をする。</p> <p>○強弱や曲の気持をあらわして合奏する。</p>                    | <p>○自分の好きな曲を度々きき、その構成や内容を自分なりに感じとる。</p>                       | <p>全体の中の異った部分の調和は二学期にも体験しているが、更にそれを深める。</p>                         |
|             | <p>○自分の歌うのを他人にきかせたり又他人の歌うのをきいて楽しむ。</p> <p>○簡単な合唱をする。</p>           | <p>○自分自身の独特な考えで一人で自由表現をする。</p> <p>○劇あそびの役わりを理解し、そのものになり切った表現をする。</p>            | <p>○指揮をよく見て曲の気持に浸って合奏し、はじめやおわりをきちんとまとまった演奏をする。</p>                | <p>○少し長い曲にも興味をもつようになる。但し意識してきく場合個人差がある。</p>                   | <p>個性をのばしたい。</p> <p>個性のあるめいめいが集団的にもり上がった表現をすることが望ましい。</p>           |
|             | <p>○きれいな発声で曲の気持をあらわして且つ正確に歌う。</p> <p>○オペレッタなどもいきいきと楽しんでいます。</p>    | <p>○基本運動が年令なりにせい一ぱいの表現をしてそれに自信をもつ。</p> <p>○テーマや構成や動きなどすべて自分で考え創り出して自由表現をする。</p> | <p>○5・6種のリズム打楽器でまとまった曲を合奏し、それに陶醉出来る。</p> <p>○各パートの打ち方など聞きわける。</p> | <p>○なまのすぐれた演奏をきく機会があれば尚よい。</p> <p>○流してきく名曲は年間を通じて与えられている。</p> | <p>幼児として小手先の技術より、そのものの精神に直結させたい。</p> <p>しかし少しずつ技術もたかまってはくるであろう。</p> |

#### 四、表についての補足

この表には実際の教材をつけ足してないので、ここに書かれたものだけでは、どの程度に、どんなものを、どんなやり方で与えたらよいかわからないと思う。しかし実際保育に当たっている保育者は、自からの心でそれを考え、教材を選ばなくてはならない。ここに一例としていくつかの教材をあげるのはたやすいが、それにかたよっても困る。やはり、その地域の幼児に適した、しかしその時の指導者の手に合うものを誠意をもってとり上げて活用することが望ましい。

又、この表だけ見て、非常に高度な要求をしている様に考えるのは誤りである。頭声発声は5才になれば可能であるし、合唱、合奏、オペレッタ、舞踊劇などといっても、あくまでも幼児に適した程度のものである。尚、動きの自由表現は5才までにのびせるだけのばしておかないと、学齢以上になってからだと抵抗が多く、のびが少ない。流してきかせる曲については、この表にはあまり書いてない。これは、二の「音楽リズム」の領域の内容のところで述べたし、又、流す曲については3才も5才もあまりかえなくてよいからである。この表では意識してきかせることを主にしてあるが、これもあまり段階的に細部にこだわらなくてよい。

#### 五、幼児教育上から見て、「音楽リズム」の必要性と、

##### よい指導者としての条件

幼児の音感はいつ頃から育つものであろうか、赤ん坊が耳がきこえ出

した時にもうそれは育ちは始めている。人間の脳の中、音感に関する中枢、最も早く発達するものの一つである。幼児期こそ、この発達の時期である。そして6才以上になると、だんだん発達の度がぶくなるのである。

幼児によい音楽を与え、美しい音を聞かせるということ、逆に、雑音や騒音や、非音楽的な音や、また、音楽ではあっても間違った音や、悪い音楽から遠ざかった環境を作ってやることは大切である。おとなが無神経な粗雑さで音に対して限り、子どもはやはり音楽に対して鈍い感覚しか持てないようになるものである。

3才児ぐらいから聞くだけでなく自分が歌ったり、何かを鳴らしたり、体をリズムカルに動かしたりすることによって、自分から表現しようという意欲をもつようになるが、楽しい音楽環境を作り、指導者自身、音楽を楽しみ、幼児の発達にあった種々の音楽的経験を与えて行くことが望ましい。

又、動きの自由表現については、表現体になり切れる幼児の特性からも、この時期に大いに経験させ、自分の思いのままの身体表現で、のびのびと創作することをためらわないように指導したい。情操は幼児期に育てなければ時期を失ってしまう。

実際保育に当たるものの責任は、考えれば考える程重い。しかし、ただいたずらに劣等感にとらわれたりすることなく、素直に幼児に対し、そして絶えず向上心を持つことが肝要であろう。

「音楽リズム」の領域の保育は決して容易ではない。幼児の表現技術は未熟であるが、幼児の感性は高く、表現するものの心をつかんでいき

た表現をする。これを目標にしなければならない。

よい指導者としての条件を次にいくつかあげて見た。

- 1、音楽に陶醉出来る心をもっている
- 2、身体表現に於ても、表現体になり切れる心をもっている
- 3、音楽及び踊ることについての表現能力
  - 正しい音程感とリズム感と和音感
  - 正しい発声をする能力
  - ピアノ等楽器を弾く技術
  - よく動く体
- 4、自分自身のそれ等の能力を絶えず向上させる様に勉強している
- 5、自分自身として音楽愛好者である
- 6、教師としてよい教材を選ぶ能力をもつ
  - 。曲として、詩として勝れているもの
  - 。幼児の心にあっているもの
- 7、いきいきした態度で保育に当ること
- 8、幼児の表現を理解出来る
- 9、幼児の創造性を引き出すことが出来る
- 10、幼児と共に楽しんで表現する

以上の諸点を皆完全に身につけている保育者はおそらく皆無か、まれであろう。しかし保育者がまず自分自身を少しでもこれに近づけようと努力することが大切である。指導者の心や技術の高まりが、そのまま幼児に影響して、よりよい教育効果をあげることになるのである。